

(1) 基本的に

慢性期の治療は、養生の型で診察し、腹の古いツボを中心に左右どちらが悪いか決める。臍の上下で左右が変わっていたら、臍の上下で治療する左右を入れ替えてもよい。

悪いと決めた側jから刺鍼していく。患部に関係するツボが出やすい所に来たら、丁寧に観察してツボを見付け、刺鍼。その後、また、養生の型に戻り、刺鍼を続けていく。そして、後始末として、頭に散鍼し手甲に引いて終わる。

慢性期では、先ず、鍼中心で治療。2,3回養生の型を中心にした後で、古いツボが特定できたら、灸や灸頭鍼を中心に治療。

(2) 運動器系

運動器系の場合は、青めくでは、基本的に腹診に因ってツボを選び刺鍼。

うつ伏せや座位では、患部に関係する所を丁寧に観察し、ツボを見付け刺鍼。また、動作制限などがあるときは、座位や立位で適切な動作鍼をして改善。

そして、悪い所が足首より先のときは、巨刺・上下刺・対角刺を組み合わせる。指などが悪いときは、糸状灸を組み合わせる。これらも、主に座位です。

ただし、腰痛の場合など、患部の腹側にツボが出ていたり、その腹のツボに関係する手足の経絡にツボが出ていたりすることもある。そういうときには、仰向けで、それらのツボに刺鍼することもある。

患部ごとの出やすいツボや、出やすい動作鍼などは、先急の一本鍼を参考に。

(3) 内科系

1. 上衝がない場合

上衝がない慢性症状が中心のときには、基本的に養生の型で診察し、腹の古いツボの改善、水毒・瘀血の減少を目指して、治療していく。

そのため、手足のツボは、腹の古いツボとの経絡的相関関係から、探す。背中側のツボは、腹の古いツボとの横輪切り相関から、探す。が、症状によっては、その症状に関係するツボが出ていることもあり、それも考慮する。

2. 上衝を伴う場合

カゼの慢性期など、上衝も伴う場合には、上衝に関連する症状も考慮に入れて治療。

先ず、養生の型に入る前に、手甲に引き鍼。それから養生の型に入る。腹の古いツボや症状との関係で、手足や背中など陽位のツボを選び、刺鍼していく。

肩首が終わった後で、首の前側や胸の上部に熱い所があれば散鍼し、ツボが出ていれば刺鍼します。その後、頭を散鍼し、手甲に引き鍼して仕上げ。

(4) 慢性期の型+灸・灸頭鍼

鍼のみでの慢性期治療をしてみても、鍼のみで変わりにくいような古いツボが見付かったら、灸や灸頭鍼との組み合わせで治療。

古いツボの出ている所が腹などで痛がられるときには、灸をするが、それ以外は灸頭鍼のほうが変化が早いことが多い。

手の引き鍼の後に、腹と大腿部の古いツボ2,3か所に灸や灸頭鍼をし、それから、足の引き鍼や灸をする。灸頭鍼の場合は、灸頭鍼をしながら、足の引き鍼や灸をすること多い。

うつ伏せでも、背中、腰などに灸頭鍼をしながら、足に引き鍼したり灸したりしていく。

灸や灸頭鍼をする面が上になるような工夫も必要。患者さんが辛い範囲で。そのため、横向き寝になってもらうこともある。また、首の周りなども、うつ伏せか座位で、灸や灸頭鍼した方がよいこともある。

座位では、肩首など表位で、熱い所に散鍼し、出ているツボに刺鍼。それから、頭に散鍼し、手甲に引き鍼して仕上げ。灸を沢山した場合などでは、手の骨空などに仕上げの灸をしておくのもよい。

・付録.慢性期の簡略処置

慢性期でも、時間がないときは、腹の刺鍼の省略する。腹診のときに腹に出ているツボにすこし強めに指圧しておけば、経絡的に関係する手足のツボや背中のツボに刺鍼したときに、その腹のツボに響き、改善する。

20分位で終わることも可能。